

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていた
だきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 新庄小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒731-2103
広島県山県郡北広島町新庄3497番地

E-mail : shinjo-e@stn.town.kitahiroshima.lg.jp

Website : http://www.khiro.jp/shinjo-es/

児童生徒数：男子 38名 女子 33名 合計 71名
 児童・生徒の年齢 6歳～11歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

持続発展教育（ESD）の全体計画

学校教育目標 夢を育み、目標を持ってたくましく生きる児童の育成

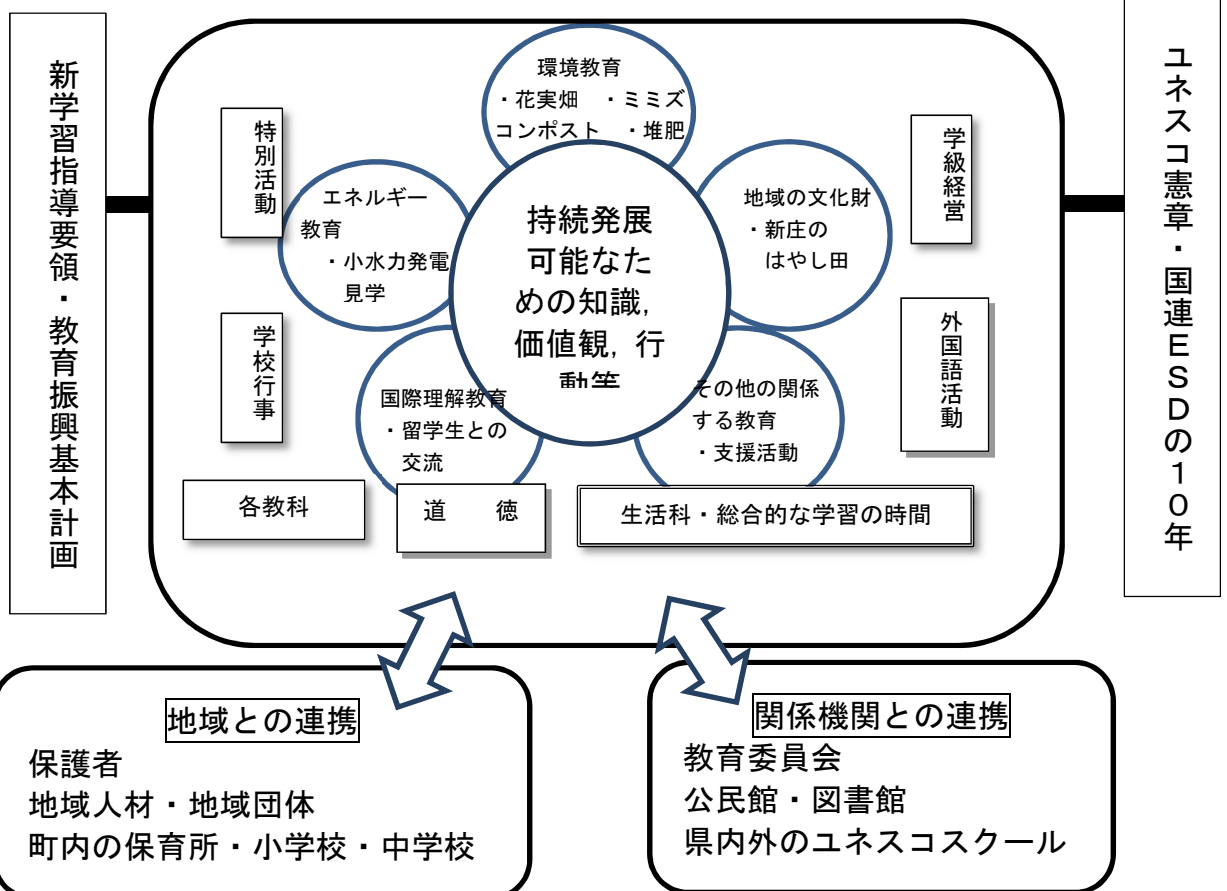
ESD の目標

- 持続可能な発展のために求められる原則、価値観及び行動が、あらゆる教育や学びの場にとりこまれること
- すべての人が質の高い教育の恩恵を享受すること
- 環境、経済、社会の面において持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすこと

ESD を通して身に付けさせたい力

- ①信頼・協力 仲間と協力して活動する力《協力》
☆他者の思いを知り、声をかけ合い活動する。
- ②地域とのつながり 地域社会と関わろうとする態度《参加》
☆地域にある文化財などに興味を持つ。
☆地域の方の思いを受け止めたり、質問したりする。
- ③自然とのつながり 自然の恵みを感じ、共生しようとする態度《関連》
☆動植物の生命を大切にすること。

ユネスコスクールとして地域に根差した持続発展教育の充実



(1) ユネスコスクール学校間交流について

今年度は、福井県勝山市のユネスコスクールである荒土小学校と交流をした。伝統文化の分野で、それぞれの県の伝統的工芸品を調べ報告し合った。社会科の「私たちのすむ県」の単元の学習において、調べたことを発表するという形に発展させた。

①計画書

ユネスコスクール学校間交流について

- 1 ねらい
 - ・ユネスコスクールのネットワークを活用し、他地域の文化や特徴を捉える。
 - ・社会科を中心とした学習の効果を高める。
- 2 交流校 福井県勝山市立荒土小学校 4年生
〒911-0045 福井県勝山市荒土町伊波 2-28
電話：0779-89-2002
- 3 交流内容 社会科で自分たちの住む県の伝統的工芸品や特産品、特徴ある事項について調べたことをお互いに交流し合う。
- 4 日程
 - 1月 交流決定
 - 2月 それぞれの学校で伝統的工芸品や特産品について調べる
活用機器の動作確認
 - 3月 テレビ会議形式で、発表し合う。
- 5 テレビ会議について
 - (1) 実施日時 平成27年3月4日(水) 14:00~14:45
 - (2) 活用機器 iPadの「FaceTime」を活用し、双方向のやり取りができるようにする。
 - (3) テレビ会議の流れ 全体司会(玉村先生)
 - ①本時の流れ説明 玉村先生 3分
 - ②あいさつ・発表(荒土小学校) 10分
 - ③あいさつ・発表(新庄小学校) 10分
 - ④質問・感想 ※事前に考えておく。 5分
 - ⑤講評(前園先生) 5分
 - ⑥閉会(玉村先生) 2分
- 6 その他
 - テレビ会議の記録(各担任)
 - 当日、テレビ会議がうまく作動しなかった時のために、事前にとっておいたビデオをDVDで送っておく。
 - テレビ会議実施後の感想を各担任がまとめ、お互いに送って交流する。

②成果

- ・テレビ会議形式で行い、離れた地域との直接的な言葉のやり取りや話し合いが可能になった。
- ・新しい交流方法や発信方法を児童が身に付けることができた。
- ・IC機器を使うことで、児童に興味関心を高めることができた。
- ・交流会とすることで相手意識や目的意識が向上し、教科の学習のねらいを達成した。

③課題

- ・初の試みであったため、おたがいの学校の発表を聞いて質問するという型にはまった中での交流となった。双方向のやり取りが瞬時にできるという利点を生かし、もっと自由に一人一人が発言しながら話し合いを進めてもよかった。
- ・このたびは、担任同士が知り合いだったということもあり、ユネスコスクール学校間交流の相手校をさがすことが容易であったが、そうでない場合は、なかなか交流内容に沿った交流相手校をさがすのは難しい現状にある。

④児童の感想

- ・福井県でもとんどをやっているとわかったけど、夜にすると聞いていたので、違うときにやるんだなと思いました。越前漆器は、1500年前から作っていることが分かったのでよかったです。家の中でできる仕事でいいなと思いました。水送りは、1200年前からやっていると聞いてわかってよかったです。新庄では、お水送りをしている人はいなかったから、福井だけしている行事なのかなと思いました。福井のことを知ることができてよかったです。
- ・みんないろいろ調べていたのですごく詳しい。4年生と楽しくできたのでよかったです。また、交流したいです。上手にできてよかったです。1番気になったのは、恐竜です。動いたり触れたりして面白そうなので私も福井県に行って触ったりしてみたいです。あと、恐竜のドラマなども見たいです。
- ・荒土小学校のみんなと交流して、いろいろなことを聞かせてもらって、知らなかったことが知れたのでよかったです。質問も出し合っている分わかりました。また、荒土小学校のみんなと交流できたらいいなと思いました。
- ・福井には、福井の事が載っている教科書があったからいいなと思った。
- ・iPadを通して福井とつながっていると思ったら不思議だなと思いました。大学の先生の言われたとおり、お金もあまりかからないから、また、iPadを通して福井県の4年生と話せたらいいなと思いました。福井にはいろいろおもしろい所や祭りがあるので遊びに行ってみたいなと思いました。
- ・すごく緊張したけど、上手と言ってもらえたのでうれしかったです。緊張したけど楽しかったです。おたがい楽しく発表できたからうれしかったです。交流会最高でした。これからも交流会を楽しみたいです。

(2) 伝承芸能について (新庄のはやし田)

①ねらいの見直し

ESDの視点をより明確にするために、伝承芸能として行っている「新庄のはやし田」の活動の「ねらい」の見直しを行った。

(変更前)

- ・地域に伝わる伝統芸能(新庄のはやし田・南条おどり)に触れ、文化を伝承しようとする態度を養う。
- ・友達どうし協力しながら活動する。

(変更後)

- ・地域に伝わる伝統芸能(新庄のはやし田・南条おどり)に触れ、地域の人とつながることを通して、社会と自分とのつながり・かかわりに関心をもち、それらを尊重し大切にしようとする態度を養う。《関連》
- ・友だちと動きや呼吸を合わせて演技することを通して、友だちと協力・協同してものごとをすすめるようとする態度を養う。《協力》

②引き継ぎ式の改善

年度終わりに6年生から5年生へと受け継いでいく「引き継ぎ式」を行っている。その中で、今年度は6年生が総合的な学習の時間に「新庄のはやし田」について調べたことの発表を取り入れた。6年生は、総合的な学習の時間の「課題設定」「情報収集」「整理分析」「表現」の学びのサイクルの「表現」の部分を活用することとなった。これまでになかった表現方法を取り入れることができた。また、学習内容を劇化して発表したことで、1～5年生にもわかりやすく伝わり、「これからも6年生の思いを受けて、しっかり受け継いでいこう」という思いを強くすることができた。

《引き継ぎ式計画書》

ESD (はやし田引き継ぎ式) 学習指導案

- 1 学 年 全学年
- 2 活動名 はやし田引き継ぎ式
- 3 ねらい 6年生からはやし田を引き継いでいくことを通し、伝統が継承されていく実感を持たせる。《連携》
異学年との練習を通し、進んで参加する態度を育てる。《参加》

4 展開

学習活動	指導上の留意点	評価
1 校長先生あいさつ		
2 6年生発表	総合的な学習の時間で学んできて、はやし田への思いを発表させる。	
3 ささら渡し 6年生→5年生		はやし田が受け継がれていくことを意識し、自分なりの決意を考えている。

4	はやし田披露	ゆっくりとした速さで行っていきようにさせる。	
5	感想発表（6年生）	本番だけでなく、これまでの練習を含めた取り組み姿勢も感想に入れるようにさせる。	3学期初めより、自分たちが進んで練習してきたことに充実感を持っている。
6	講評 保存会の大下さんの話を聞く。		
7	片づけ	保存会から借りているものもたくさんあり、大切に扱うことを確認する。	

《引継ぎ式の様子》



《はやし田の様子》学習発表会



(3) エネルギー学習について

① ミミズコンポスト

平成23年度より行っている給食の残食の有効活用であるミミズコンポスト。今年度からは、ミミズコンポストの移動を行った。これまでは、残食の運搬の利点から配膳室近くの屋根のある場所に設置していた。しかし、その状況では自然に近い状態とは言えず、改善を行うこととした。

ミミズコンポストは、学級園の近くに設置した。これにより、残食の運搬は距離や天気（雨天時や降雪時）などにより、かなり大変になる。しかし、良い面も出てきている。それは、

ア) これまで屋根つきであったため、夏季には児童や職員がわざわざ水をコンポストにかけてやらないといけなかったが、雨がコンポストに降りかかるようになり、その作業をほとんどしなくてよくなった。

イ) コンポストから出る液肥の活用がとてもスムーズになった。コンポストの真横に学級園があり、たまった液肥をすぐに畑にまくことができるようになった。また、雨が降ることによって、液肥が受け皿にいっぱいになることが多くなるとともに、ある程度雨で薄められた液肥を自然に作ることができ、植物にとってもよい状態のものを活



用できている。

②小水力発電見学

4年生が、総合的な学習の時間を活用して、小水力発電の見学を行った。今回の見学は、地域の一般家庭でされている家庭用の小水力発電である。

製作者の佐々木さんに、発電施設の製作時の苦労や維持していくことの大変さ、水力発電を始めた思いなどを聞かせて頂いた。水力発電では、製作・維持管理を含めると金銭的に赤字になることを知っていながら、地球に対して個人として何が出来るか考え行動しているとの話をして下さった。子どもたちは、自分のことだけでなく、次世代に続く子どもたちのことを思っている行動に気づくとともに、エネルギーの有限性や可能性について学習することができた。

《活動計画書》

小水力発電見学計画

- 1 ねらい 小水力発電の見学・学習を通し、自然エネルギーへの関心を高める。
- 2 学習計画
 - (1) 水力発電についての学習
 - ①水の使い道について考える。
 - ②水力発電の仕組みについて知る。 ダムに水をためて、坂になっている管の中を通した勢いでタービンを回し発電する。
 - ③北広島町には、自宅で水力発電をしている人がいることを知り、質問を考える。
 - (2) 世界の水事情についての学習 温暖化に伴う海面上昇（ツバル）
 - (3) 水力発電見学（佐々木さん宅）
 - (4) 見学を終えてのまとめ
- 3 見学計画

日 時 平成27年3月3日（火） 14:00～15:10

場 所 佐々木さん宅

移動方法 車1台

児 童 新庄小学校4年生（12名）

内 容 装置見学 ・給水口
・送水ホース
・タービン
・変電装置
・井戸水のくみ上げ装置

質問タイム ※見学時にできなかった質問

※佐々木さんから環境に対する思いや地域に対する思い、未来を創造する子どもたちへの思いも含めて話をしていただく。

《見学の様子》



(4) 環境学習について

○地域に流れる河川の水質検査及び生息生物の調査（4年：総合学習）



(5) 食育について

○学級菜園（花実畑）での野菜栽培（全学年）

学校園を使って、生活科や理科、総合的な学習の時間と関連させて野菜作りを行っている。特に、3年生は、大豆を育てた。大豆は、昔地域の農業として盛んに栽培されていたもので、収穫した大豆で地域の方と大豆を使った料理に挑戦した。

《3年生の授業の様子》



○稲作体験（5年：総合的な学習の時間）

地域で栽培されている「赤米」を取り上げ、田植えや稲刈りを地域の方と共に行った。その際、「新庄のはやし田」も披露し、早乙女が実際に田植えをしながら、はやし田の演奏を行った。



○赤米を使った創作料理・地域の方との交流会（5年：総合的な学習の時間）

家庭科の学習とも関連させ、地域の方を招いての会食会を開いた。その際に軽食として出したケーキやクッキー・ピザなどは、これまで学習してきた赤米を活用した。自分たちでどんな料理が適しているか調べ、地域の方にふるまった。地域の方からは、「おいしい。」との言葉を頂いた。

《授業の様子》



（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）